

代表者メッセージ

先人の皆さんからの知恵だろうかー。

日本でも一番雨量の多い大台ヶ原の嶺続きで、台高山脈の薊岳、国見山、高見山（元高見山の四股名）から三つの川に水が注ぎ込んでいるのが、丹生川上神社（水の総社）の夢淵といます。神武天皇が橿原の地に即位される事前に、この地で御身を進まれた所でもあります。

大正元年 12 月 26 日に吉野水力電気株式会社が設立されました。吉野の山奥に最初の水力発電所が誕生しました。45kW でオモチャのような規模だけれども、山村で電灯が灯り製材業が起こり、その先人の思いに感謝して近代的生活を傍受することは素晴らしい喜びでありました。

大正 3 年 2 月 6 日から発電を開始して 100 年以上経ちました。電気ができて短い様に思われますが、昭和 38 年に廃止されてから鉄管の土台の遺構が残っています。導水路もコンクリートが貴重だった時代に平たい野石を集めてきて蓋にして、その当時の苦労が忍ばれます。

今こそ、私たちが現在の技術で復活させ、東吉野村の再生を担い、過疎の村を元気で若者が定住し得る村造りを進めて行かなければなりません。そして魅力的な村づくりに貢献し、地元出身者の若者や都会からの I ターンを増やしたい。そのような思いがこの事業のバックボーンです。

折りしも東吉野村では 2013 年に「クリエイティブ・ビレッジ」構想を打ち出して、若い芸術家が移住してきています。

水は万物生成の根元であり、大切に村造りに邁進します。また利益を基金運用して地域活性化事業に役立てる為に、皆様の応援よろしくお願ひします。



代表取締役 森田 康照

科学技術学園高等学校卒業。
関西電力に入社し、35 年間勤務。
東吉野村村会議員として 16 年間務める。
東吉野村小水力利用推進協議会会長
株式会社モリタ設計 監査役員



【事業者紹介】

東吉野水力発電株式会社

東吉野村で大正から昭和にかけて稼働していた水力発電「つくばね発電所」の復活に向けて、東吉野村小水力利用推進協議会設立の有志が設立しました。

【会社沿革】

2013 年 8 月 東吉野村小水力利用推進協議会設立

2014 年 2 月 市民生活協同組合ならコープ理事会で
東吉野村小水力利用推進協議会の支援決定。

2014 年 9 月 ならコープグループ会社である株式会社 CWS の取締役会にて、
会社設立への支援と資本金 40 万円の拠出を決定

2014 年 11 月 東吉野水力発電株式会社設立



東吉野水力発電株式会社

HIGASHIYOSHINO HYDROELECTRIC POWER

地域の力と
豊かな水資源から
生まれる新たな力。



東吉野水力発電 が復活します

私たち「東吉野水力発電株式会社」は、水と自然に恵まれた東吉野村で、クリーンで再生可能なエネルギー『小水力発電』を始めます。正確に言えば、「小水力発電の復活」です。100年ほど前(大正3年)から、東吉野村では小水力発電所が稼働していました。

その名も「つくばね発電所」です。当時の村の有力者である船津弥八郎氏によって「吉野水力電気株式会社」が設立され、発電所が稼働されたと伝えられています。

「つくばね発電所」は、昭和38年まで、東吉野で稼働し続け、山間の家々に電気を送り続けたといえます。

私たち「東吉野水力発電株式会社」は、当時の導水路などを再利用し、現代の技術「クロスフロー水車」を搭載した「つくばね発電所」を復活させます。



旧つくばね発電所



旧水路跡

水力発電が地域の活性へ

発電された電力は電力会社へ売電します。

その利益は、東吉野の地域課題の解決に繋げる基金として運用していきます。

施設の説明	
発電施設概要	
水車	クロスフロー発電機 小容量の領域では、経済性に優れた水車です
発電方式	水路式 最大出力 82 kW
最大使用水量	0.10 m ³ /s 有効落差 105.00m

場所 位置図



1 丹生川上神社

水の神様である罔象女神(みづはのめのかみ)を祀っています。



2 水圧管路

旧つくばね発電所の水路を活用し、新たに水管をつくります。



3 日裏川上流

ここから取水口を設置し、水を引っ張ります。

「事業の利益」を東吉野村の活性化へ(ビジョン)

- ①環境教育と交流の場(山の学校・川の学校・自然エネルギー学校など、体感できる教育)
- ②林業再生に向けた支援(林業関連組織へのサポートなど)
- ③基金の活用(事業収益を積み立て、村の活性化に役立てます)

